

令和 6 年度 第 2 回 東部地区交通協議会

日時：令和 7 年 2 月 2 8 日（金）19：00～20：30
場所：田道ふれあい館 3 階 第 2・3 会議室
（目黒区目黒一丁目 2 5 番 2 6 号）

次 第

1 経過等

関係機関との調整経過について

2 議題

- （１）さんまバスの利用実績について
- （２）アンケート調査結果について
- （３）乗車率向上等に向けた取組について
- （４）今後の進め方について

3 配布資料

- | | |
|------|---------------------------|
| 資料 1 | 関係機関との調整経過 |
| 資料 2 | さんまバス利用実績について |
| 資料 3 | アンケート調査結果について |
| 資料 4 | 乗車率向上等に向けた取組について |
| 資料 5 | 今後の進め方について |
| 資料 6 | 令和 6 年度第 1 回 東部交通協議会 議事要旨 |

以 上

1 「目黒区地域公共交通会議」の開催概要

令和6年11月6日に開催した、令和6年度第1回目目黒区地域公共交通会議（以下「交通会議」という）において、東部地区での地域交通導入の実績と今後の進め方、北部地区での取組状況を報告した。東部地区については、さんまバスの利用状況、各種周知活動、実証運行への意見を踏まえた対応策（案）等の取組を報告し、今後、会議でいただいた意見をもとに、東部地区の取組経過を取りまとめ、適宜交通会議へ報告することが確認された。



地域公共交通会議の開催状況

名 称	令和6年度 目黒区地域公共交通会議（第1回）
開催日時	令和6年11月6日（木）15:00～17:00
会場	中目黒スクエア 2階 第5・6会議室 （東京都目黒区目黒二丁目10番13号）
出席者	18名、傍聴者0名
主な意見 東部地区	・収支について、人件費や電気代等経費の高騰は今後も継続することが予想されるが、収支率の目標値不足部分はどのように補うか。東京都から支援があるか、区で補助するか。区税で補填の場合、区民意見を確認する予定はあるか。満足度を調査する際、基準はどのように設定するか。 ・公共交通の収支は一般的に赤字となることが想定されるので、公費負担として区税の投入が考えられる。さんまバスは区民を輸送することのみを目標としているのではなく、クロスセクター効果のように、外出促進や、コミュニティ参加機会の創出、生きがいの増加や長生き、認知症予防、フレイル対策といった定量化が難しい効果も想定されるため、東部地区以外の地区に対する説明責任をどう果たすのかという点において、定量化できない効果の扱いを考えていく必要があると思う。

次頁に続く

主な意見 東部地区	アンケートでは、さんまバスを維持していくために、地域としてできることは何か、周りの方がバスを利用するために自分は何ができるかといった視点でコメントを頂くなど、自分事と捉えてもらえると良い。
	目黒区はよく努力されていて、ふるさと納税の活用先にさんまバスの運行支援があるなど、ふるさと納税の使い道として地域交通があることは珍しい。しかし行政が努力しすぎると、地域住民との意識の乖離が生まれて、区に全てを任せられてしまう可能性もあることにも留意し、地域住民に自分事として関わってもらえるとよい。
	子育て世帯にとっても雨天時の移動手段ができるというのは大きく、子どもが複数いると送迎が大変だということもよく聞くので、さんまバスが維持できるように、自分たちでもできることを考えていく必要があると感じた。
	朝夕の増便というのは区役所職員にとっても便利だが保育園への送迎に利用される方にとっても便利だと思うので、朝夕（8時台、18時台等）に1～2便でも増便されるとよい。
	交通事業者も、少子高齢化で運転手が少ないなか雇用を確保していたが、新型コロナの3年間で新規採用ができなかったことが影響し、すぐに運転手の人数を増やすのは難しいという状況である。
	新しく計画を立てるときには、既存の公共交通機関をいかに活かすかといったところも考えるべきである。既存の公共交通と共倒れにならないように、協調して事業を行っていくことが大事かと思う。

2 警視庁打合せ

打合せ日時	令和7年2月12日（水）14:00～15:30
場所	警視庁 5F 交通規制課内打合せスペース
出席者	警視庁交通規制課 2名 目黒区都市基盤整備課 2名
内容	東部地区地域交通「さんまバス」の経過並びに運行経路の変更及びバス停の追加について
記録	【運行ルート】 運行ルートの見直しは、新たなルートを設定するわけではなく、既存のルート上なので問題ない。 【バス停追加】 バス停については、各所轄警察署へ確認し、了承を得ていれば問題ない。 また、バス停新設については、地先の了承や道路管理者との調整が必要。

3 東急バス株式会社打合せ

打合せ日時	令和 7 年 2 月 26 日（水）10:30～12:40
場所	目黒区 都市整備課内打合せスペース
出席者	東急バス株式会社 3 名 目黒区都市基盤整備課 3 名
内容	東部地区地域交通「さんまバス」の運行ルートの見直し、バス停新設（アクティ目黒駅前）、既存バス停（目黒警察署前）の追加について
記録	【運行ルート】運行ルートの見直し(往路：田道ふれあい館経由) ○ルート見直し可能 ・田道ふれあい館へのルート変更は+5分増。 ・田道ふれあい館にルート変更すると、1日で1時間程度所要時間が増え、結果的に1便減る。また、運転手の拘束時間の兼ね合いで、12便を維持するのは難しい。 ・田道ふれあい館以外の利用者にとっては移動時間の増となるので、どうバランスをとるか。 【バス停追加】新設(復路：アクティ目黒駅前)、既存(復路：目黒警察署前) ○バス停の新設、既存バス停の使用は可能。 ・アクティ目黒駅前、目黒警察署前停車で+1分増。 ・バス停設置は占用などの手続きに時間がかかる。 【運行ダイヤ】 ・1便減となるが、要望のあった目黒駅発始発便8時台(8:12 発：厚生中央病院 8:20 着)、区役所最終便17時台(17:25 発)のダイヤでの運行は可能。 ・1便減により、区役所発8:32 便がなくなり、9:07 始発となる。

- ・利用者数は7月の増便(6便/日→12便/日)に伴い増加したが、11月以降減少傾向にある。
- ・支払方法はICカードが最も多く、増便以降は専用回数券の利用も増加している。
- ・利用率は、運行開始以降の10ヶ月平均で16.6%となっており、実証実験運行の当面の目標である35%に届いていない。
- ・収支率は、一年間の運行経費(ドライバー等人件費、電力費、諸経費)に対する収入額(運賃収入、広告収入等)の割合であり、今後、運行事業者から報告を受け、1年間の収支率を算出する。

■利用人数（運賃ベース）



■利用率（利用者数/車両定員）



(1)さんまバス利用実績について

- ・さんまバスの利用実態については、バス車載センサー(乗降口設置)により乗降状況の把握を予定していたが、運賃箱実績との差異が大きかつ継続して見られたことから、乗降の傾向を把握するため平日・休日1日ずつ、調査員が乗車し、乗降調査を実施した。

(平日:令和6年10月17日(水)、休日:令和6年10月20日(日)の全便を調査)

- ・調査の結果からセンサーデータとの差異が特に大きい起終点は除外し、途中バス停の利用傾向・乗車率向上の取組の効果把握のためにセンサーデータを活用する。

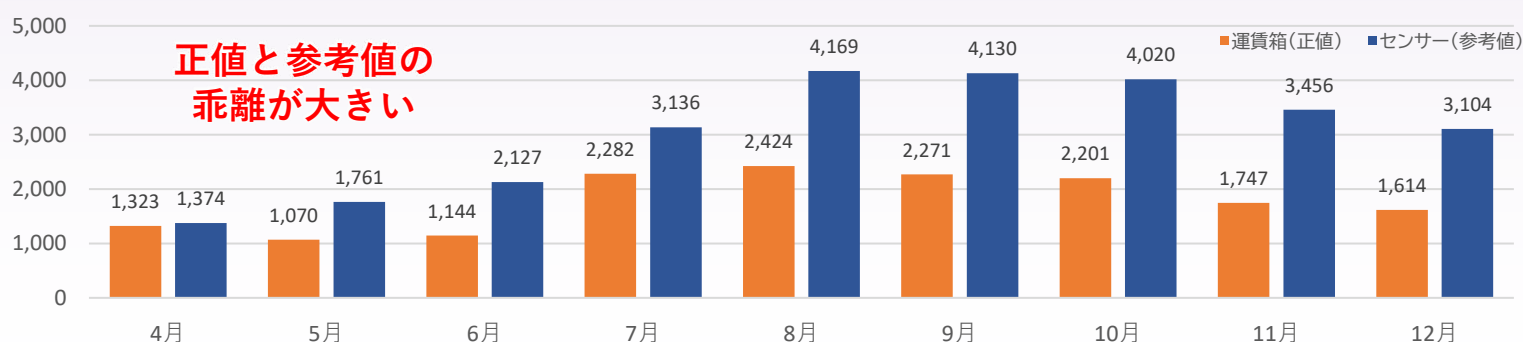
■乗降調査実施の背景・目的

運賃箱

月単位の決済方法別利用者数 (正值)

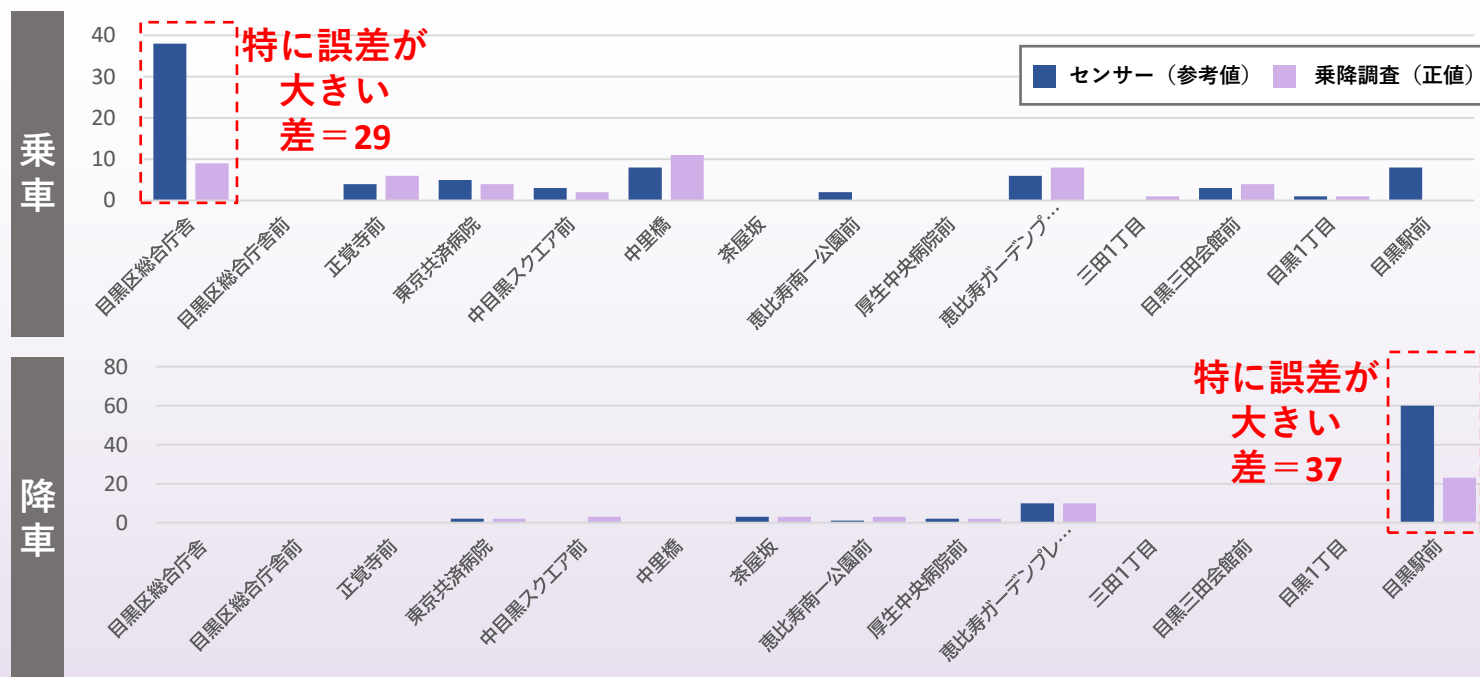
センサー

時間帯別曜日別利用者数 (参考値)



乗降調査により正確で詳細なデータを取得し誤差の要因を把握

■乗降調査結果の概要 (令和6年10月20日 (日) 総合庁舎→目黒駅前の結果を抜粋)



センサーデータ 活用方法

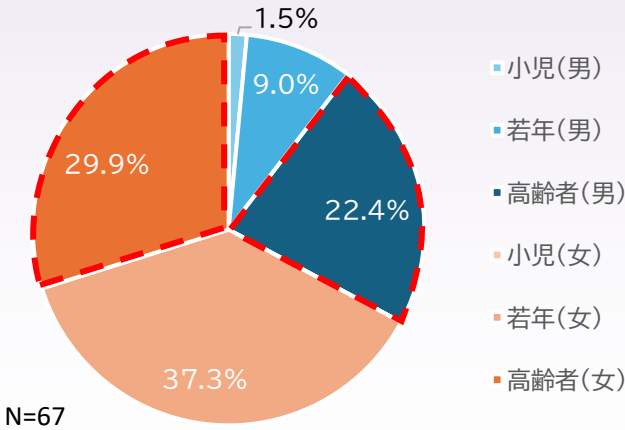
誤差の少ない途中バス停でセンサーデータを用いた利用傾向の分析を行い、乗車率向上等の取組時の効果検証時の参考データとする。

(1)さんまバス利用実績について

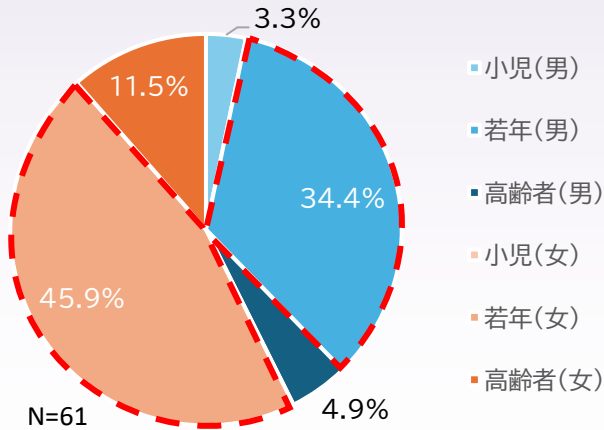
- ・調査の結果から、平日は高齢者の利用が約5割、休日になると若年の利用が約8割となっており、乳幼児の利用比率も休日の方が多くなっている。
- ・利用が多い区間は平日では厚生中央病院・東京共済病院からの利用が多く、休日は恵比寿ガーデンプレイス南での利用が特に多い傾向である。

平日 10月16日（水）

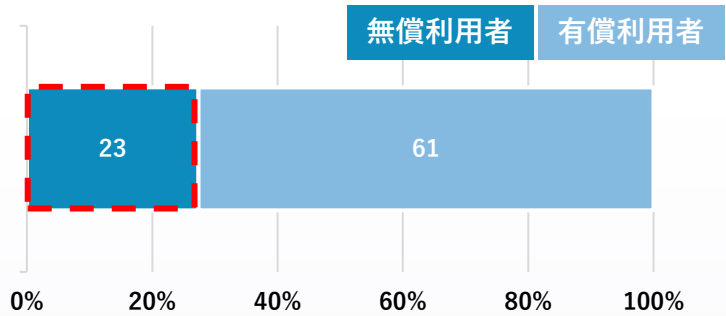
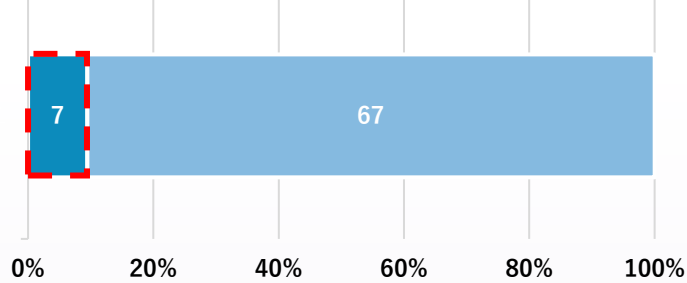
■有償利用者の属性内訳



休日 10月20日（日）



■有償利用者と無償利用者の比率（乳幼児の比率）



■利用の多かった区間

順位	区間（平日）	人数
1	恵比寿ガーデンプレイス南 → 目黒駅前	6
2	目黒三田会館前 → 目黒駅前	5
3	目黒区総合庁舎 → 中里橋	4
	目黒区総合庁舎 → 恵比寿ガーデンプレイス南	4
4	厚生中央病院 → 目黒区総合庁舎	3
	東京共済病院 → 目黒駅前	3

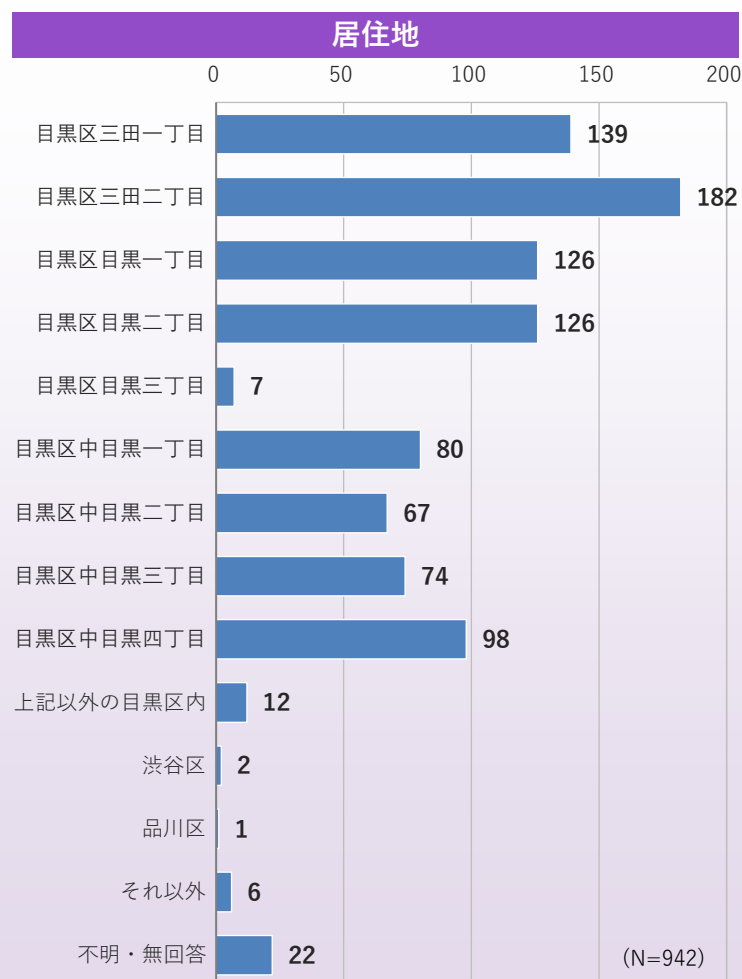
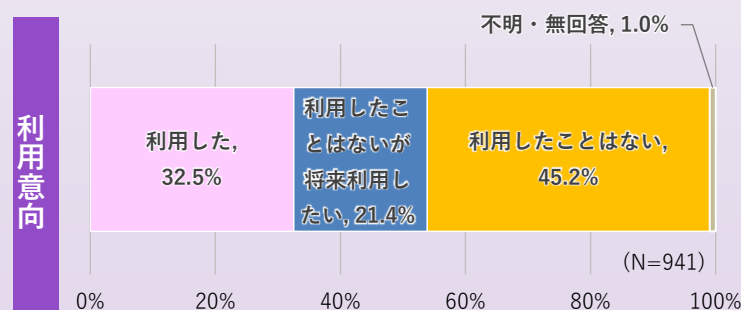
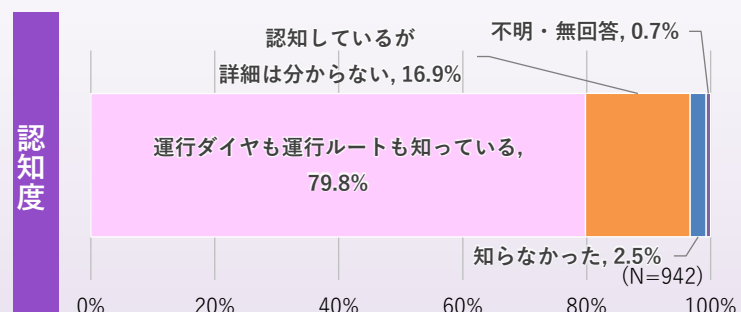
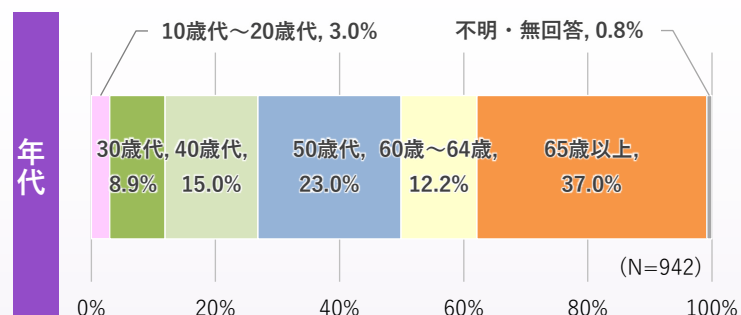
順位	区間（休日）	人数
1	目黒駅前 - 恵比寿ガーデンプレイス南	8
	恵比寿ガーデンプレイス南 - 目黒駅前	8
2	中里橋 - 恵比寿ガーデンプレイス南	6
	三田公園前 → 目黒区総合庁舎	6
3	目黒区総合庁舎 → 目黒駅前	5
	田道ふれあい館 → なかめ公園橋前	5

- ・さんまバスの実証実験の認知度・利用の把握やニーズを確認し、より良いサービスとするためにアンケート調査を実施した。
→アンケート回答の分析を行い、さんまバスの満足度の評価や改善点を検討する。

■アンケート調査の概要

項目	内容
実施目的	さんまバス運行開始後の満足度について把握する
対 象	東部地区内ポスティング14,923世帯、区施設200部、病院内チラシ配架150部 計 15,273対象へアンケート調査を実施
回答件数	合計942件（内訳：紙619件、WEB323件）回答率 約6.2%
回答期間	令和6年12月20日(金)～令和7年1月31日(金)
回答方法	アンケート用紙に同封されたはがきにて郵送回答 / WEB回答
アンケート項目	●さんまバスの実証運行の認知について ●さんまバスへの回答者の考えについて ・さんまバスを利用したことがあるか ・利用した際の目的、利用日時、利用頻度について ・ご乗車時に利用したバス停について ・さんまバスを利用していない理由について ●さんまバスの実証運行による印象について ・満足度（移動利便性向上、外出機会増加、地域コミュニティへの参加機会増 等） ・さんまバスの運行によって免許返納がしやすいと思うか ・地域の皆さんにさんまバスを利用してもらうための改善点

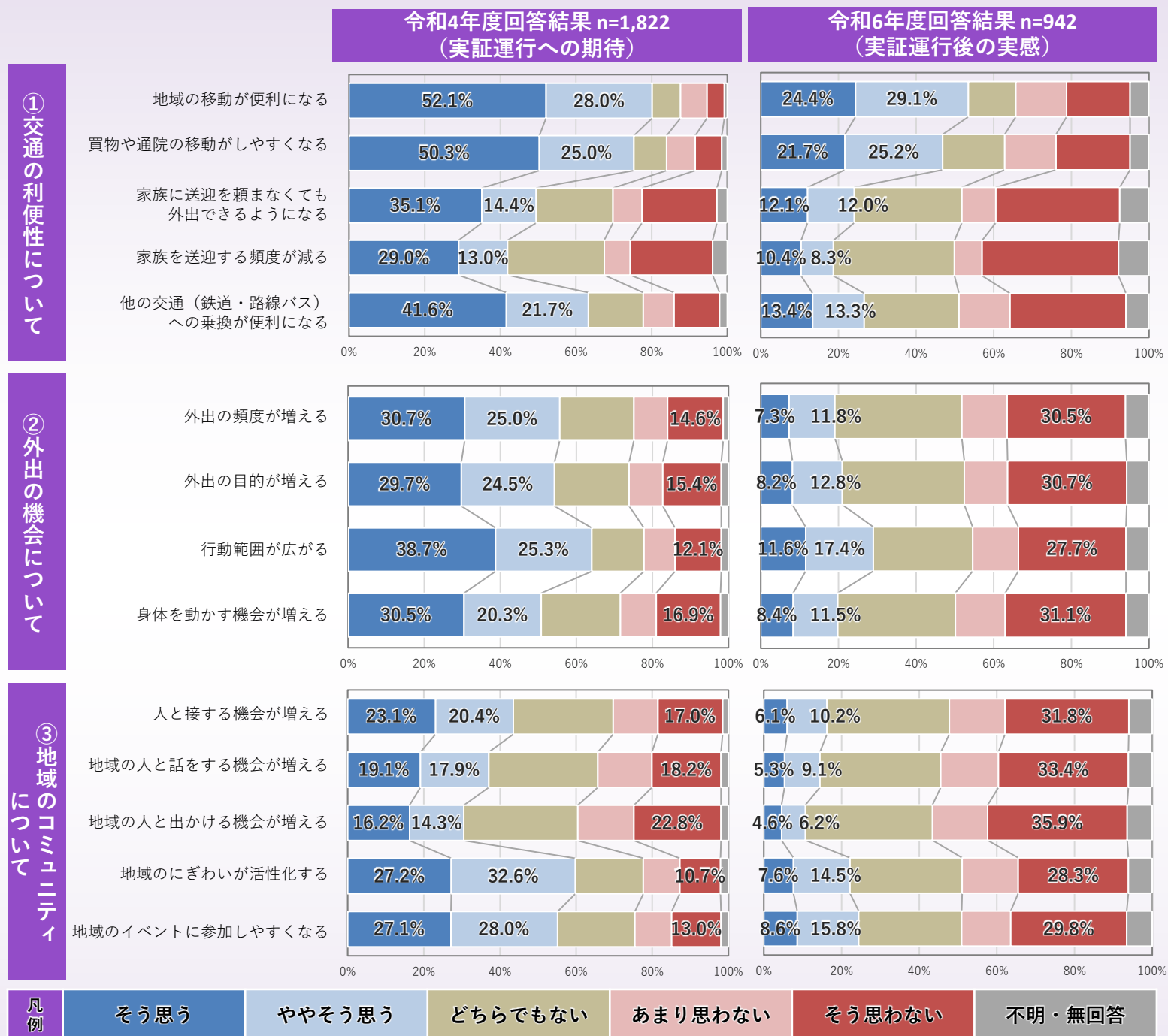
■アンケート結果の概要



(2) アンケート調査結果について

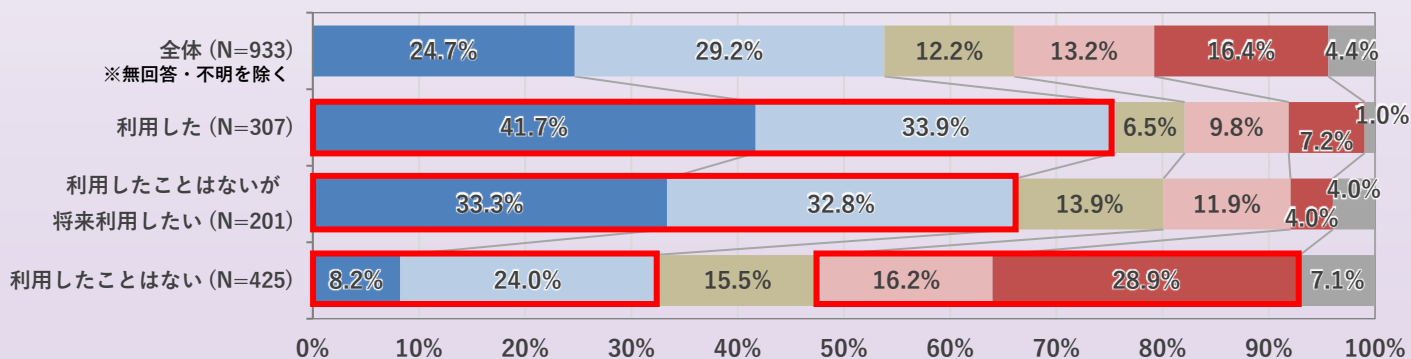
■ 令和4年に実施したアンケート調査との比較

- ・令和4年アンケート(運行前の意向調査)と比べ各項目の満足度が低くなっている。
- ・利用意向別に見ると、利用した人や利用意向のある人の満足度は高い一方で、利用したことがない人の満足度は低いため、総体的に見ると今年度アンケート結果の満足度が低く見える傾向にある。
→利用機会の醸成に向けた施策を検討し、利用率と満足度の向上を図る。(資料4に記載)



■ 利用実態別に見た満足度乖離の抜粋(利用有と利用意向有は満足度が高く、利用無は満足度が低い)

※上記、令和6年度回答結果①～③を利用実態別に集計。



- ・前回の協議会開催後、さんまバスについて協議会による東部地区全戸へのニュースレターの配布や、区での区民まつりの広報活動、サポーター制度の導入により、地域への認知度の向上と収支率向上に向けた取組を行った。

①東部地区協議会での広報活動 ニュースレターの配布（アンケート配布時に同封）

実施目的	さんまバスの認知度向上およびモデルルート提示による利用の促進
配布	東部地区内 15,273対象（別途実施したアンケートに同封して配布）

MEGURO → SANMABUS

さんまバス利用モデルルート

東部地区からのお出かけに「1日乗車券」をご利用いただくと…

自宅 → 11 19 三田一丁目 → 14 目黒駅前

東98に乗り継いで…
東京タワー
東京のシンボル・東京タワーで素敵な眺めを楽しもう！

黒07に乗り継いで…
区民キャンパス
学びとふれあいの場で楽しいひとときを！

黒02に乗り継いで…
イオンスタイル碑文谷
食料品から日用品まで揃う、家族で便利にお買い物！

東急バス1日乗車券でいろんなところにお出かけしよう！

乗換バス停	駅・商業施設	病院	公園・レジャー	文化施設
14 目黒駅前	黒02 イオンスタイル碑文谷		東98 東京タワー	黒07 区民キャンパス
20 茶屋坂	黒72 JR五反田駅		黒72 林氏の森公園	黒72 目黒不動尊
25 東京 共済病院前	黒41 黒42 黒43 東急池尻大橋駅	黒09 三喜病院	黒41 黒42 黒43 目黒天空庭園	黒09 野沢巖雲寺
26 目黒区 総合庁舎前	黒71 東急洗足駅	黒32 東京医療センター	黒32 駒沢公園	

東急バス1日乗車券 東急バスが1日乗り放題の便利でお得な乗車券です。大人540円 小児280円

MEGURO → SANMABUS

目黒区 東部地区 地域交通ニュース 第3号 令和6年12月

東部地区の地域交通バス(さんまバス)は地域の皆さんと一緒に東部地区交通協議会を設立し、令和6年3月26日に実証運行を開始しました。今後は皆様からのご利用状況を踏まえ、移動しやすいサービスとして提供し続けるために効果検証を進めて参ります。

グラフで見るさんまバス (令和6年10月分まで)

■さんまバスは3月26日の実証運行開始から、約9か月が経過しました。4月～6月は1,000～1,300人にご乗車いただき、7月の増便以降は毎月2,000人を超えるご利用を頂いていますが、直近ではご利用に減少傾向がみられます。

■1便あたりの利用者数は6人前後となっており、実証運行の当面の目標値である12人には届いておりません。さんまバスが地域で継続して運行できるよう、利用者数の増加にご協力ください。

利用者数

月	現金	1日乗車券	専用回数券	ICカード	合計
4月	1,323人				1,323人
5月	1,070人				1,070人
6月	1,144人				1,144人
7月	2,282人				2,282人
8月	2,424人				2,424人
9月	2,271人				2,271人
10月	2,201人				2,201人

1便あたりの利用者数

月	1便あたりの利用者数 (人/便)
4月	7.35人
5月	5.75人
6月	6.36人
7月	6.13人
8月	6.52人
9月	6.31人
10月	5.92人

東部地区交通協議会 会長 三柴伸生
事務局 目黒区 街づくり推進部都市基盤整備課地域交通担当 渡岡・庭田

さんまバスの詳しい情報はこちらから

②区の広報対応

●目黒区民まつりでのブース設置

MEGURO → SANMABUS

さんまバス通信

★第48号目黒区民まつり特別号★

東部地区の地域交通バス(さんまバス)は地域の皆さんと一緒に東部地区交通協議会を設立し、令和6年3月26日に実証運行を開始しました。今後は皆様からのご利用状況を踏まえ、移動しやすいサービスとして提供し続けるために効果検証を進めて参ります。

目黒区民まつり・さんまバス周辺MAP

最新リバス停はココ

発行日:令和6年10月13日



↑ブースでの情報提供
←区民まつり来訪者
向け利用促進チラシ

●サポーター制度（ふるさと納税）の導入

「さんまバス」実証運行 支援のための寄付

令和6年10月1日（火）より「さんまバス」の実証運行支援のための寄付を受け付けています。
（さんまバス実証運行の経費等へ活用）

■寄付者に贈呈する記念品

1. コースター
2. シールシート
3. ステッカー
4. ペーパークラフト

寄付メニュー
「さんまバスを守り、育てたい」

記念品

(3)乗車率向上等に向けた取組について

- ・運行開始後、区に対して運行ルートの見直しや新たなバス停箇所の設定、新たな利用を見込んだ運行時間帯の追加などの意見がある。
- 現在、運行ルート見直し・バス停増設の早期実現に向けて、運行事業者・交通管理者等と協議を進めている。

主な意見 (抜粋)



バス停留所

- ・目黒駅の手前にバス停が欲しい
- ・既存バス停を追加可能か



走行ルート

- ・田道ふれあい館に向かうのに目黒駅からのルートしか停留所がない。



運行便数

- ・1日の運行便数が少ない
- ・夕方に区役所から帰る便が欲しい

対応策 (案)

●バス停の増設

- ・新設：アクティ目黒駅前に新設③
- ・既設：目黒警察署前のバス停を使用②

●運行ルート見直し

- ・総合庁舎→目黒駅前行便について茶屋坂から田道ふれあい館を経由するルートを検討①

●運行時間帯の追加

- ・7月より運行間隔を45分として便数を倍増
- ・病院の受付時間や庁舎からの帰宅時間を考慮した運行ダイヤの検討。

調整状況

③アクティ目黒駅前新設

- 地先：承諾済
- 交通管理者：説明了解済
- 運行事業者：説明了解済

②目黒警察署前バス停停車

- 交通管理者：説明了解済
- 運行事業者：説明了解済

①運行ルート見直し

- 交通管理者：説明了解済
- 運行事業者：説明了解済

運行事業者：業務時間延長・運転士不足による調整課題

△運行時間延伸に伴う
全体ダイヤ・便数に
ついて検討＝1便減

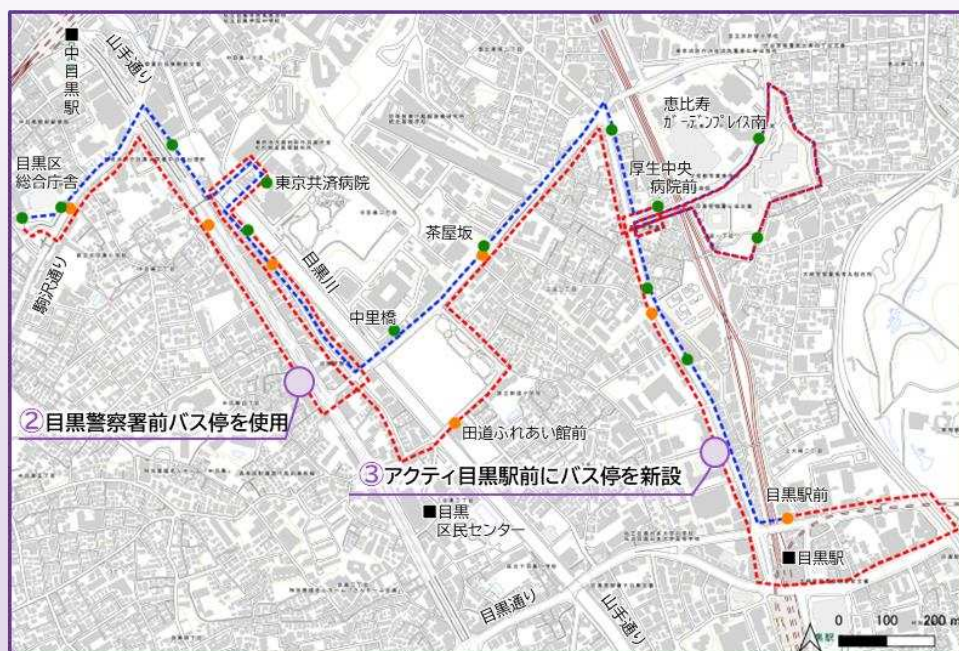
△朝夕の増便の検討
1便減便による検討

■協議中の対応策



凡例

- 往路
- 復路
- 既存のバス停
- 新設するバス停



(3)乗車率向上等に向けた取組について

■さんまバスの利用促進に関する取組

- ・現時点におけるさんまバスの利用状況をみると、実証実験運行の実施にあたって設定した利用率等の当面の目標値に対して低い状況となっている。
→継続的な運行に必要な目標値の達成に向けて、沿線施設と連携したさんまバスの利用機会の醸成に向けた新たな仕組みの構築などが考えられる。

実施目的	沿線施設と連携したさんまバス利用機会醸成に向けた仕組みづくり
開催時期	令和7年3月下旬～6月下旬を予定
配布場所	さんまバス車内、協力店舗、沿線施設で計3,000枚を配布予定 ※詳細は調整中
参加方法	①さんまバスに乗車し、バス車内に配架予定の乗車証明書、沿線ガイドを取得する。 ②沿線ガイドに記載の加盟店舗に来店し、対象店舗の会計時に乗車証明書を提示し特典・割引を付与 ※1枚につき1店舗のみ。繰り返し利用は不可

●地域による取組のイメージ



(4)今後の進め方について

資料5

1 令和7年度の運行計画について

現在、関係機関や地先と調整を進めている運行ルートの見直しやバス停の設置については、今後、地域公共交通会議の合意を受け、国への手続き後にバス停整備を行い、新たなルートで運行していく。

2 さんまバスの利用促進に関する取組について

東部地区交通協議会による、さんまバス利用促進に向けたルート沿線店舗と協力して行う沿線ガイドキャンペーンについて、イベントやロコミ・SNS等による周知活動を支援していく。

3 本格運行を目指した実証実験運行の事業評価について

実証実験運行の継続判断は、以下3つの基準項目を評価します。

- (1) 利用率：運行本数に対する利用者数の割合
- (2) 収支率：運行経費に対する運賃収入の割合
- (3) 満足度：実証運行後の利用者の意見

